

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 6年 3月 1日

公表：令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
						改善内容又は改善目標
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	1	とくになし。いない。	児童発達支援センターとの連携は行っていない。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	2	交流がないように思えるので、機会があれば交流できると良いと思う。いない。	今後は交流するがの提供等を行っていききたい。
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	2	子供の部会はない。	子どもの部会がない。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	連絡帳や実際に会った際など、分かりやすく伝えるように心がけている。家庭で困っていることに着いて共有するように努めている	児童発達支援の利用者の方がいない
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	2	3	ペアレントトレーニングについては行っていないと思われる為、事業所主催で保護者様向けに講習会があってもいいと感じる。保護者会などしているが参加率があまりよくないので参加率をあげていきたい。	保護者会で保護者向けの研修を行っていききたい。
有 へ の 説 明 書	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	1	基本的には責任者の方が行っていると思うが、知識として知っていた方がい	児童発達支援の利用者の方がいない
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	1	2	利用者がいない。	児童発達支援の利用者の方がいない
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	2	2	利用者がいない。	児童発達支援の利用者の方がいない
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	1	保護者会の参加人数が少ないので、もう少し声かけなどを行い促す必要があるかなと感じる。保護者会を行なって	今後は参加人数を増やしていききたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	1	おもに責任者の方が対応しているが、保護者様から相談依頼があった場合、もっと分かりやすいフローがあると思う。利用者はいない。	法人全体で問題可決に取り組んでいる。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	人員が変わったときに出している。	年に一回は会報を出している。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	0	鍵付きロッカーを使っている。	児童発達支援の利用者の方がいない
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	0	利用者はいない。	児童発達支援の利用者の方がいない
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	3	以前は行っていたが、コロナ禍以降行っていないので、可能であれば復活できるといいと感じる。以前はあったが今はない。コロナ前は行っていた	最近では地域社会の衰退で町内会自体が消滅してしまった。
	非 常 時 等 の 対 応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	1	現在、作成中
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		6	0	0	月に一回以上行っている。	児童発達支援の利用者の方がいない
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		6	0	0	情報共有を行なっている。	児童発達支援の利用者の方がいない
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	1	0	医師の指示書がある利用者がない。	児童発達支援の利用者の方がいない

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 6年 3月 1日

公表：令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	ヒヤリハットを作成している。	児童発達支援の利用者の方がいない
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	外部研修と内部研修を行なっている。	最近虐待からくる脳構造に関しての研修も行った。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	0	承諾のサインをいただいている。	児童発達支援の利用者の方がいない

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

保護者等数(児童数)20名 回収数 6件 割合 30 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	0	0	1	施設自体が新しくきれいですし、広さも十分だと思います。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	0	0	1		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	0	0	1		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※Ⅰが作成されているか	5	0	0	1		
	5 活動プログラム※Ⅱが固定化しないよう工夫されているか	6	0	0	0		
保護者 への 説明 等	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	0	3	2	今のところ、特に希望はございません。もしあれば教えてください。我が子は常時、支援が必要なため、健全の子との交流は難しいため、特に必要性を感じていません。共生社会実現の為に交流の機会を増やして欲しい。まだ参加した事がないので、今後参加できればと思います。	
	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6	0	0	0	丁寧に説明していただいています。よくわかります。口頭と書面で分かりやすく説明いただいております。特に意見はありません。お忙しい中、ご丁寧に説明していただいています。他デイさんとの兼ね合いなど、その都度ご相談させて頂き、助かっております。	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができていますか	4	1	0	1	週に一回の保護者お迎えの際に、双方の伝達ができていると思います。まだ利用日数が少ないので、もう少し利用日を増やして子供の特性などを共有していきたいと思っています。	
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	1	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	1	0	2		
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5	0	0	1		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6	0	0	0		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	0	0		
非常 時等 の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	6	0	0	0		
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	5	0	0	1	入所時にご説明頂きました。	
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	1	0	1	特にはありません。避難訓練をしていることは把握しています。避難訓練の実施の案内、実施した日の子どもの様子の報告をしていただいております。定期的に避難訓練を実施されているので、できていると思います。日々の訓練が大切ですので、今後も行って下さい。避難訓練等を行っているのは何っております。	
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	6	0	0	0		
	18 事業所の支援に満足しているか	6	0	0	0		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 1日

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

チェック項目		はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0	広いスペースを活用できるように机の位置など考えている。安静室も完備している。防音室を使うことで活動など部屋を広く使っている。スペースに余裕があるため、活動時や作業の際、密接にならないよう利用者間の距離をとることができている。	もし改装することがあればデイルームから直接トイレに行けるようにしていきたい
	2 職員の配置数は適切である	5	1	0	活動時につく担当など工夫している。人員が基本的に多い。職員の休暇があった場合、非常勤勤務のスタッフを配置するなどにより業務負担が増えないようにしている。	法的な人員基準を満たしているが重度の方が多く日はマンパワーを必要とする場合がある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	0	階段には手すりを付けている。廊下からデイルームからまではバリアフリーになっている。デイルームやトイレなどはバリアフリー化できていると思われる。しかし、そもそもデイルームが2階にあり階段に昇降機が無いいため、車椅子使用の際はマンパワーが前提になっている。もう少し何か設備などで補助が可能になると良いと思われる。	同一の階層はバリアフリー化がされている。二階部分がデイサービスになるためその部分ではバリアフリーではない。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	0	打ち合わせの時間に話している。問題解決をするために行っている。打ち合わせで反省をしている。日々todoリストを作成することで、課題などをピックアップしやすい。そのため、目標設定が容易でありPDCAのサイクルがスムーズに行われるようになったと感じる。	日々の業務報告の中で行っている。行動指針の中でもTODOリストを作成し業務改善を事業所レベル、個人レベルで行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	0	懇談の時に話を聞いている。回答が返ってくるように個別に連絡している。アンケートだとかなり具体的な意見を書いていただけるので、本当に何を求めているのかが分かりやすく業務改善に繋げやすいと思われる。	利用者の方にも評価表を活用しているが返信率が高くないので今後、返信率を50パーセント以上には上げていくようにしていきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0	ホームページに載せている。ホームページの各事業所の自己評価が載っているので、見やすいと思われる。	公表しているがホームページ上でどれだけの人に見られているかはわからない。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	1	行っていない。外部評価は未実施だと思われる。	行っていない。今後、行ってきたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	全体会議後に行ったりしている。外部研修、内部研修を行っている。研修機会はなかなか多くいただいている印象を受ける。可能であれば、研修を休んでしまった場合の再受講がもっと容易にできると良いと思う。	年間行事で組んでいるが、療育支援の質を高めることと療育理論の理解を深めることに注力したい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	家庭、学校の生活環境など聞いている。児発管の方が懇談を行いニーズの抽出を行っている。また、個別支援会議を行うことで課題等の客観視も行われている。	定期的な面談を行い、情報収集に努めている。児発管だけでなく、一職員も同様に努めている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	0	法人独自のアセスメントツールをつくっている。アセスメントツールの使用はできていないと思われる。	法人独自のアセスメントツールを使っているがもう少しこまやかなものが今後いるかもしれない。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	0	能力に合わせた活動を考えている。配置や時間など情報共有や留意点を話している。活動内容は偏り無く、かつ楽しめるように組み立てを行っている。しかしながら、活動内容を新しく作り出し続けることは容易では無いため、月に数個の固定プログラムの導入などがあれば、難易度を変更するなどのバリエーションを考えるだけとなるので、すこし負担が少なくなると思われる。	個人プレーとチーム立案のダブルでの療育プログラムの作成を行っている。もう少し1か月の大まかなものでも全員で考えていけたらよい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 1日

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	同じ活動担当にならないように、工夫している。一カ月で活動が被らないようにしている。飽きないようバリエーションをつけるようにしているが、まったく違った内容を新しく作り続けることは容易ではないため、プログラム自体の固定はしても良いかと思う。難易度やルールの組み合わせなどでバリエーションをつけることができるので	曜日で活動が重複しないようにしている。定期的に行うビジョントレーニングなどは継続して行っていければと思う。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	0	午前と午後の活動にわけて考えている。長期の休暇などは2つの活動を行ったりしている。個別支援会議に併せ、毎日のミーティングから課題の洗い出しなどを行い、支援内容の更新を行っている。	利用者の方が時間を持って余さないように工夫している。また宿題などがある方に関しては集中して行う時間を提供している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	安静室を使いながら個別療育を行なっている。状態が常に一定というわけでは無いため、基本ベースは集団活動だが難しい場合は個別活動に切り替えを行い対応している。	今後は小集団での療育も検討している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	意見が言えるように工夫している。活動の前に行っている。ミーティングを行い、些細な内容でも全体で共有できるように気を付けている。	応援で来てくれるスタッフに関しては情報共有できていない場合もあるのでノートにまとめて情報共有をおこなっていきたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	1	次の日に行っている。気づいた点があれば、報告するように努めている。	時間外になってしまう可能性もあるので翌日に繰り越している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0	業務日誌を書いている。業務日誌やヒヤリハットなどの書類を残している。小さなメモを持ち歩き、都度書き留めるように努めている。	記録から傾向の把握等を行っている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0	ケース会議やモニタリング会議等を行なっている。主に児発管の方が行っている。	今後も継続的にやっていく。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	0	2	5領域を網羅するようにしている。知識が無いため、判断できません。	組み合わせているが、今後は数値化できるようにしていきたい。	
関係機関や保護者との	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	0	児童発達管理責任者や主任が出席している。児発管の方が対応されている。	頻度は少ないがこちらから開催の打診をすることもある。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	0	LINEワークス等で適時連絡している。連絡があればすぐに対応できるように努めている。行事予定などの連絡がない場合、自発的に確認を行うようにしている。	下校時間や何かあった際には学校側と協議することもある。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4	0	利用していない。利用者がいない。医療的ケア児不在のため、判断できません。	利用者がいない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	1	会議の時に共有している。利用者がいない。主に児発管が行っていると思われる。情報自体は職員間にて共有されている。	中高校生の事業所になるので保育園との連携はあまりないがあった際には積極的に情報共有を行っていく。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	1	関連事業所とは連携している。児発管の方が対応されていると思われる。	情報の開示請求がある場合は情報共有を行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 1日

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
連携	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	2	研修は多く受ける機会があるが、児童発達支援センターなどからなのかは分からない。	児童発達支援センターとの連携は行えていない。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	2	今は交流はない。機会は無い。	今は交流はない。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	2	参加しているか判断できない。	法人の者が参加している。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	デイでの様子は送迎時にお伝えしている。連絡帳や送迎時にて情報の交換を行っている。	今後は定期的にアセスメントできていけばいいかなと思う。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	2	十分なペアレント・トレーニングは行えていない。ペアレント・トレーニング自体は行っていないように思われる。	保護者向けに研修ということでペアレント・トレーニングは行えてはいないが話をする機会にそのような場合もある。
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0	契約時に説明を行っている。児発管の方が行っている。	契約時に行っているが、各項目の終了時に疑問点はないかの確認を重点的に今後行っていきたい。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0	保護者と連絡しながら連携している。相談は主に児発管の方が対応されている。また、助言についても同様と思われる。	いろいろな方法を提示して保護者が行える方法を選んでもらうように一支援方法ではなく複数提示するように心がけている。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	0	保護者会を行なっているが、参加者が少ないので参加率を上げていきたい。保護者会を開催し、参加された保護者の方々と意見交流会や相談会を行っている。もう少し参加人数が増えるとなお良いかと思う。	参加率が少ないので今後契約者の半数が参加するような保護者会を行っていききたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0	職員で対応できない場合は管理者で対応している。苦情等があった場合、所属の児発管に報告し、会社代表が対応するなどを行っている。	法人全体で問題可決に取り組んでいる。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	人員が変わった場合には連絡をしている。アシスト通信を発行し、情報の提供を行っている。	年に一回は会報を出している。
	35 個人情報に十分注意している	6	0	0	鍵付きロッカーで対応している。研修を受けたり、個人情報に含まれる内容の伝達はセキュリティの入った情報伝達ツールを使用するなど、注意を行っている。	今後は各個人(スタッフ)の書類の管理を行っていかれたらと思っている。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0	絵カードや言い回しを考えながら伝えている。情報が正確に伝わるよう、簡潔に内容の説明を行ったり、絵カードなどのツールを使用している。	言い回し等で成功事例をもとに情報共有を行い、意思疎通を円滑に測れるように心がけている。
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	2	以前はあったがコロナでなくなってしまった。コロナ禍以前は地域住民も交えたイベントを行っていたが、コロナ禍以後は感染症対策の兼ね合いから開催されていない。	最近では地域社会の衰退で町内会自体が消滅してしまった。	
38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	0	作成中のものもある。研修を行ったり、手紙の配布などを行っている。	周知している。	
39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0	月一回は行っている。1ヶ月に1回必ず行っている。また訓練内容は都度変更し、様々な災害を想定している。	大雨、地震、津波、不審者など一か月に一回は行っている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 1日

公表:令和 6年 3月 26日

事業所名 りんごの樹

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	外部研修や内部研修。虐待防止研修は必修のものとし、行っている。	最近虐待からくる脳構造に関する研修も行った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	6	0	0	サインをいただいている。児発管の方が行っている。	保護者からの理解は得られている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	1	医師の意見をもらっている利用者がいない。医師の指示書というよりは、保護者様からの指示によりアレルギー対応をおこなっている。	保護者からの情報提供をもとに行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0	書類管理している。ファイリングされ、従業員であればすぐに確認ができる保管庫へと収納されている。	作成を行い共有している。